



六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。(毎月第3日曜日に掲載します)

山上巡る芸術祭 五感で楽しもう

根岸真理が案内
山の四季便り

六甲山の秋の風物詩「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」が始まった。山上で展開される現代アートの芸術祭は2010年に始まり、今年で15回目を迎えた。昨年、ハイキングをしながら作品を鑑賞できる「トレイルエリア」が新設されたが、今年さらにはエリアが拡充された。道端で、普段使われていない空き地で、不思議なモノたちと出会う。ただ作品を眺めるだけでなく、木々の香りや爽やかな山の風、鳥のさえずりと共に、五感をフル稼働させて楽しむ。

六甲ミーツ・アート 鳥、虫の目線体験も



ある登山家の生涯を表現した作品=いずれも神戸市灘区



穴の中に入ると虫の目線を体感できる作品



トレイルエリアに飾られたアート作品

六甲山の秋の風物詩「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」が始まった。山上で展開される現代アートの芸術祭は2010年に始まり、今年で15回目を迎えた。昨年、ハイキングをしながら作品を鑑賞できる「トレイルエリア」が新設されたが、今年さらにはエリアが拡充された。道端で、普段使われていない空き地で、不思議なモノたちと出会う。ただ作品を眺めるだけでなく、木々の香りや爽やかな山の風、鳥のさえずりと共に、五感をフル稼働させて楽しむ。

別荘街エリアで展開されるのは、「BEYOND HUMAN」自然界におけるコラボレーションの探求をコンセプトにした4組のアーティスト作品。山の自然の中で、人間以外の生き物の視点について考えるという、まさに「ミーツ・アートらしい」作品だ。

このほか昨年に引き続き、パンノ山荘やブナの径、新池にも作品が点在。新エリアとして、観光施設「六甲ミーツ・アート」事務局(078・891・0048)

一般公開していない六甲山地域福祉センターが「エルカム小屋資料館」に。同じ目線を体験できる。他、雨や霧、菌糸や地衣により、ケースの中に取められた物が時間経過とともに変化していく作品もあり、今後が楽しみ。

「ROKKONOMAD」(ロコノマド)には、六甲山大学ならぬ、作品「腹八分大学」が。オランダから招へいされたアーティストの作品で、従来の「石畳上りの成長」に固執する価値観に疑義を投げかけるパネルが面白かった。

ねぎし・まり アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報専門委員。著書に「六甲山を歩こう!」など。

甲カデンテラス「南西の「みよし観音」周辺に5作品が展示されている。また「森の音ミュージアム」の庭園内にも「ほほ山登り」な傾斜のある新エリアが展開されている。トレイルエリアを歩きながら目に入る謎めいた構造物が視線となり、一番つべんま登ると、その全体を初めて理解できるという凝った作品もある(トレイルコースを先に歩くのがお薦め)。作品は展示台(記念碑)や「六甲山サイレンスリフト」(六甲ケーブル)「六甲山展望台」など9エリアに全26点ある。一日ではとても巡り切れない。21日からは闇夜に輝く光や映像による作品を楽しめる「ひかりの森」夜の芸術散歩(17日祝)も始まる。神秘的な夜の森もぜひ体験していただきたい。芸術祭は11月24日まで。六甲ミーツ・アート事務局(078・891・0048)

六甲山サイレンスリゾート

イタリアの食と文化に親しむ

六甲山サイレンスリゾートは28日から「六甲山でイタリアに出会う8週間」と銘打ち、イタリアの食と文化に親しんでもらうフェアを開催する。

同施設は、イタリアの建築家ミケーレ・デ・ルッキが近代化産業

遺産に認証された旧六甲山ホテルの修復を監修、開業時の美しさをよみがえらせた。

イタリアのワインや料理、デザート=写真=をはじめ、伝統工芸品のパズルが催される。また「ベネチアングラス制作体験ワークショップ」(10月26日、同27日、食事やデザートとのセットプラン7000円~7600円)、マヨリカ焼きの制作体験ワークショップ(11月9日、同16日、同8000円~8800円)もある。フェアは11月24日まで。



☎078・891・0650

ロコノマド

オランダゆかりの4作家出展

六甲山上の芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート2024beyond」で、トレイルエリアにある滞在型ワークキング施設「ROKKONOMAD(ロコノマド)」は4組の作品をプロデュース、展示している。

4組は、オランダゆかりのnl/rokko project、アルネ・ヘンドリックス、ロブ・ファン・ミエルロト、国内外で活動する三原聡一郎。オランダで注目される、人間と非人間が共存し生態系の再生を促す「Zoöp(ゾープ)」の考えに共感。「BEYOND HUMAN/自然界におけるコラボレーションの探求」をコンセプトに作品を発表する。

23日から日を限定し、神戸産野菜を使ったランチ=写真=を提供。詳しくはROKKONOMADインスタグラム。



神戸布引ハーブ園/ロープウェイ

秋の祭典、ドイツビール登場

標高約400mの山上にあるリゾート施設「神戸布引ハーブ園/ロープウェイ」は秋の祭典「GARDEN FEST2024-Autumn」を12月1日まで催している=写真=。秋の食材を使ったスイーツを味

わえる「収穫の秋フェア」、ドイツの古城をモチーフにした広場でドイツビールやワイン、オリジナルのハーブソーセージなどが並ぶ「ドイツ祭り」を開催。園内一帯をかぼちゃ約300個で飾る「ハロウィンフェア」(10月31日まで)や、春秋に手ぶらで来て楽しめる「ガーデンピクニック」(1日10組限定、要予約、11月24日まで)も。園内で栽培したドライフラワー約50種で作るリース用キットも販売する(10月19日~11月4日の土日祝)。



☎078・271・1160

◆保久良夢ひろば

秋のてふてふまつり 28日10~12時、保久良夢ひろば(阪急岡本駅から徒歩30分)。子ども、ファミリー向けのてふてふツアーや楽しいクラフト作りなどを実施する。秋の七草フジバカマに飛来する日本で唯一の渡りチョウ「アサギマダラ」=写真=に会えるかも。小さな子どもは保護者同伴。動きやすい服装、飲み物持参。無料。雨天の場合は翌日の29日に実施。神戸市総合コールセンター☎0570・083・330または078・333・3330

◆KOBEコケ展2024 10月5、6日9~17時(最終日は16時)、神戸市立森林植物園(神電北鈴蘭

◆森先生の特別園内ガイド

10月19日①11~12時、②14~15時、六甲高山植物園西入口集合(六甲ケーブル「ミュージアム前」)。同園園長アドバイザーの森和男さんが園内の植物を紹介=写真=。山野草を求めて日本や世界を回る森さんのディープな植物談話が聞ける。無料(別途入園料中学生以上900円、4歳~小学生450円)。申込不要。雨天決行。同園☎078・891・1247

◆須磨・淡路島の眺望を楽しもう

10月12日10~15時、山陽電車須磨浦公園駅集合。須磨浦公園駅一鉢伏山一旗振山一妙見堂署名所一須磨駅近

催しの日程、内容などは変更される場合があります。

お出かけ前に主催者にご確認ください。ホームページhttp://653daigaku.com/

王子の森・自然学校で自然とのつながりを体感

王子グループは、国内外に東京都面積約3個分にあたる約64万ヘクタールの社有林をもっています。王子の森を活用する取り組みの1つとして、小学校4年生から6年生までを対象とした自然体験型環境教育プログラム「王子の森・自然学校」を2004年から開催しています。

19回目となる今年は8月5日(月)~7日(水)に、オンライン形式(4年連続)で開催しました。森と紙にまつわる2つのプログラムを実施し、3日間で全国から214名の子どもたちが参加しました。

1つ目のプログラム「森のリサイクル編」では、前半はワークを通して森の思い出や木とのつながりを感じながら、植林による森の循環や森林の多面的機能について学び、

後半には間伐材を用いたキーホルダー作りに取り組みました。2つ目の「紙のリサイクル編」では、前半はリサイクル紙を用いて、王子の森や紙づくりに関するワークをよりリアルに感じてもらおうと、および子どもたちとのコミュニケーションを大切にしました。プログラム終了後の保護者向けアンケートでは「森や紙、自然に興味を持ち、自分たちの生活とのつながりを感じるきっかけになった」「自分の考えを皆の前で発言したり、自ら手を動かしての作り取りにやりがいを感じて、楽しく取り組むことができた」「王子ホルディングスが教育や環境への取り組みを行っていることを知り、イメージが変わった」などの声が寄せられました。

王子の森・自然学校は、未来を担う子どもたちに環境保全に対する姿勢や思いをつなぐ、貴重な機会となっています。

今回は、社有林や製紙工場で撮影してきた臨場感あふれる写真を用いて、王子の森や紙づくりに関するワークをよりリアルに感じてもらおうと、および子どもたちとのコミュニケーションを大切にしました。プログラム終了後の保護者向けアンケートでは「森や紙、自然に興味を持ち、自分たちの生活とのつながりを感じるきっかけになった」「自分の考えを皆の前で発言したり、自ら手を動かしての作り取りにやりがいを感じて、楽しく取り組むことができた」「王子ホルディングスが教育や環境への取り組みを行っていることを知り、イメージが変わった」などの声が寄せられました。

王子の森・自然学校は、未来を担う子どもたちに環境保全に対する姿勢や思いをつなぐ、貴重な機会となっています。

↑紙のリサイクル編 参加者と講師(王子ホールディングス社員)

↑紙すき体験の様子(バルブをならしているところ) ↑間伐材を活用したキーホルダー ↑紙すきはがき

わたしたちは 六甲山大学 の活動を応援しています

